読売新聞全国版朝刊2013年7月6日

（第3種郵便物認可）　2013年（平成25年）7月6日（土曜日）　読売

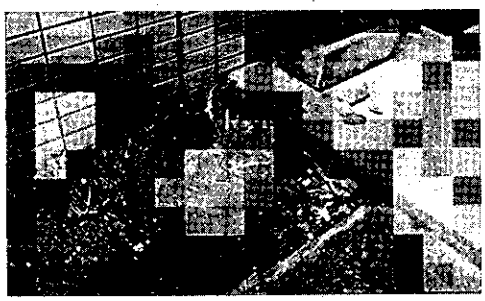
震災 復興

復興支援に関する情報をお寄せください。〒104・8243 読売新聞東京本社地方部あて。ファクス（03・5200・1836）、電子メール（naishin@yomiuri.com）でも受け付けています。

放射線量 一目でわかるカメラ

東大など開発

感度10倍、価格は10分の1



測定中のモニター画面。空間線量が色分けされて表示されるので、線量の高低が一目で分かる（研究グループ提供）

空間放射線量の低い場所でも精密に線量を測り、高低を色分けしてモニター表示できるカメラを、東京大と茨城大、北里大などの研究グループが開発した。従来の機器に比べて、感度が10倍以上高い一方で、価格は10分の1程度の数百万円に抑えられるという。

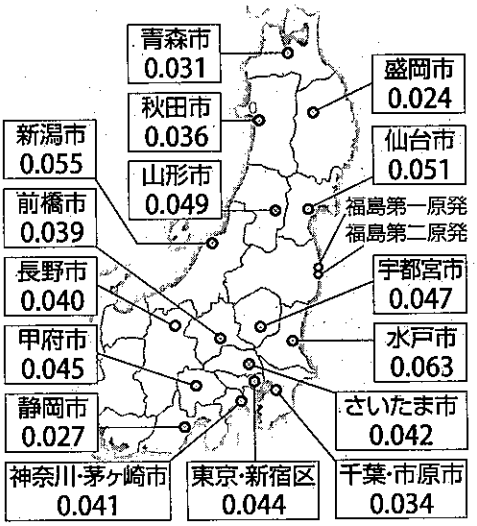
研究グループによると、開発した「ガンマアイ」は、センサーに安価なヨウ化セシウムの結晶を使い、放射性物質が出すガンマ線を検出する。特殊な半導体などをセンサーに使う従来品に比べて、大幅なコストダウンが実現した。大きめの結晶を内蔵することで、感度も上がった。

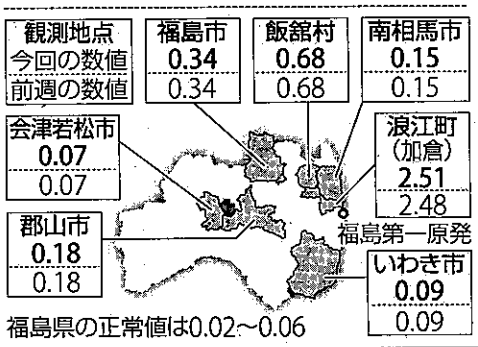
毎時0・0006マイクロシーベルト・[illegible]から測れるため、東京電力福島第一原発から離れた比較的低線量の地域の調査に向いている。また、局地的に線量の高い「ホットスポット」を視覚的に把握できるので、除染作業を効率的に進められる。

現在、放射能計測器会社と商品化の検討を進めている。東大宇宙線研究所の榎本良治准教授（宇宙線物理学）は、「今後は、高線量地域の測定もできるようにしたい」と話している。

5日の放射線量（午前9時）

※単位はマイクロ・シーベルト毎時。◎は測定地点。原子力規制委員会などによる





福島県の正常値は0.02～0.06

これまでに身元が判明した犠牲者の方々は、「ヨミウリ・オンライン」（http://www.yomiuri.co.jp）で、掲載しています。

今年1月、岩手県の復興支援員になり、神奈川県横須賀市から移り住んだ。第3セクターの三陸鉄道が最初の配属先。ほぼ毎日、沿線で写真を撮っている。

6月末。何とはなしに沿線の風景を眺めていると、リアス式海岸の断崖肌と沖合の小島がもやの中に浮か

この鉄道をもっと観光振興に
に派遣された小石川さん（右）
手県岩泉町の三陸鉄道小本駅

3県で130人に

復興支援員は2011年度に総務
度化した。被災者の見守りや地
し活動などに被災地内外の人材
し、地域コミュニティーの再生
しするのが狙いで、活動期間は
年。報酬（宮城県の場合は年間約
円）のほか、必要な活動費は全額
復興の特別交付税でまかなわれ
務省によると、12年度は岩手、宮
島3県で78人の支援員が活動し
ちづくりが各地で本格化する今
少なくとも130人に増える見通し

採用方法は自治体によって異
宮城県の場合、地域で活動する
法人などに事業を委託。受託す
地元の市町と連携して募集や研
う。福島県浪江町や岩手県釜石
うに、自治体が独自に直接雇用
る例もある。名称も宮城県が「
援隊」、釜石市は「釜援隊」な
れぞれ異なる。

（△9九飛成までの局面）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

第26期

■7四歩 ■同 桂…39 ■7三歩成 3 ■同桂成 1 ■7一飛 23 ■6二銀 2 ■6三成桂…△4 3 5時間

◇…二つの
前譜狙いの
優勢に立った
七角を取り
そうと思った
いるうちに6
でのリード
と思っていま
日この局面

G杯朝鮮日
れ、井山裕太
羽根直樹九